

現代ベトナム語における音の繰り返しを含む漢越語の固有語的特徴 —意味内容を中心に—

佐藤 章太

要旨

ベトナムは歴史的に漢字文化圏に属し、現代ベトナム語は表音文字で表記されるものの、多くの漢語由来語彙を持っており、中でも体系的漢字音で読まれる漢越語が漢語由来語彙の主流となっている。本論では、ベトナム語語彙の中でも、語の中に音の繰り返しを含む語彙群の中から、漢越語のものを分析対象として抽出した。そして、主に意味内容の変化を中心に個別具体的分析を行い、ベトナム語の固有語が持つ特徴が、これらの漢越語にどのような影響を与えているのかについて検討した。その結果、音の繰り返しを含む漢越語が93語見つかри、漢語由来と確定できる79語中、25語に意味内容の変化が見られた。その中には、ニュアンスの付与や意味範囲の限定、単音節語として使われている漢越語要素の影響、ベトナム語内部の同音異義語や音形の似た語彙の影響などのタイプがあり、これらの漢越語が様々な形でベトナム語固有の特徴に影響され、変化していることが分かった。

キーワード：ベトナム語、漢越語、漢語由来語彙、暁語、漢字文化圏の周辺

1. ベトナムと語種について

1.1 ベトナム語について

ベトナム語は、オーストロアジア語族モン・クメール語派ヴェト・ムオン語群に属す。インドシナ半島東部のベトナム社会主義共和国の国家言語であり、隣接するカンボジアや旧宗主国のフランス、戦争難民が亡命したアメリカ、中国、カナダ、オーストラリアなどにも話者がいる。言語学的には、孤立語の特徴が強く、動詞文はSVOの順に並び、修飾構造は後置修飾型であり、典型的な主要部前置型言語といえる。また、多くの音節が単独で具体的な意味を持ち、単音節性の強い言語である。

1.2 ベトナム語の語種と漢越語

ベトナムは、漢代より約1000年間、中国に支配され、その後の独立王朝時代も東アジア漢字文化圏に属し、漢字漢文を公式に用いた²。しかし、近代のフランス植民地期に、

アルファベット書記法の「チュークオックグー」(Chữ Quốc ngữ) が、漢字漢文に替わり広く普及し³、1945 年、独立後の国家言語であるベトナム語の正書法となった。独立後は旧宗主国のフランス語や、主要な社会主義国で使われていた中国語⁴やロシア語などの外国語がベトナム国内で影響力を持ったが、1986 年の刷新政策以降は、グローバル化の中で英語が最も影響力を持つ外国語となっている。このような歴史の中で、ベトナム語は、膨大な漢語由来語彙と、少なくないフランス語・英語由来語彙を、外来語として受容してきた。漢語由来語彙は、受容時期によって大きく 4 種類に分かれ、その中でも体系的なベトナム漢字音(漢越音)⁵によって読まれる「漢越語」(Từ Hán Việt) が主流のものとなっている⁶。また、歴史的に近隣、共生関係にあった非オーストロアジア・非漢語系の言語からの借用語彙も存在している⁷。

しかし、このような語源学的な語種と現代話者が持つ共時的な語種感覚との間には、ずれがある。現代では、漢語由来語彙のうち主流の漢越語のみが漢語由来と見なされ、漢語由来語彙の他の種類ならびに非オーストロアジア・非漢語系語彙は、ベトナム語の固有語彙である「純ベトナム語」(Tự thuần Việt) だと認識されている。そのため、共時的には、ベトナム語は純ベトナム語、漢越語そしてフランス語や英語などの西洋語由来語彙の 3 つの語種に区分される(佐藤, 2019)。本論では、共時的な語種区分を採用している大型現代ベトナム語辞典 Vietlex (2015) を用い、語種を判定する⁸。

2. ベトナム語における音の繰り返しを含む語彙

2.1 現代ベトナム語の音節構造

現代ベトナム語の音声音韻論研究の Đoàn Thiện Thuật (2016) によると、ベトナム語の音節は図 1 のような構造である。まず、「頭子音⁹」(Âm đầu)、「韻」(Vần)、「声調¹⁰」(Thanh điệu) の 3 つに大きく分かれ、更に韻の中が「わたり音¹¹」(Âm đệm)、「主母音¹²」(Âm chính)、「末子音¹³」(Âm cuối) に分かれている¹⁴。全ての音節が、頭子音、わたり音、主母音、末子音、声調の 5 個の要素を持っており¹⁵、その中で、声調のみが音節全体にかかる超分節的特徴である。本論では、ベトナム語アルファベット表記を" "の中に、Đoàn Thiện Thuật (2016) に基づく音韻表記を/ /の中に、日本語の意味を『 』の中に示す¹⁶。

声調			
頭子音	韻		
	わたり音	主母音	末子音

図 1 ベトナム語の音節構造(Đoàn Thiện Thuật, 2016: 62) を参考に筆者作成

2.2 音の繰り返しを含む語彙

音の繰り返しを含む語彙とは、2 つ以上の音節(大部分は 2 音節)¹⁷からなり、各音節

間に音の繰り返しが見られる語彙項目である。ベトナム語では一般的に「繰り返す語」(Từ láy)と言われている。例として、(1)～(3)を挙げる (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015: 22, 34, 64)。

- (1) "âm âm"/ʔm̩2 ʔm̩2/ 『(形) 大きく響く大勢の声をまねた音。』
- (2) "chào mào"/cau2 mau2/ 『(名) コウラウン (ヒヨドリ科の鳥の名)。』
- (3) "gặp gỡ"/găp6 ɣɔ4/ 『(動) 出会う。』

このような「音感覚性」(Phonaesthemes)のある語彙は、ベトナム語では洗練され、教養の高い感じを持つ語と認識され、学校教育でも明示的に教えられる (Brunelle & Lê, 2014: 93)。また、このような語彙は、他の東南アジアの諸言語でも広く見られる (Nguyễn Thiện Giáp, 2016 [1985]: 86–88)。また、古代漢語¹⁸や現代中国語にも見られ、2音節語のうち、声母(頭子音)が同じものは双声、韻母(わたり音、主母音、末子音)が同じものは疊韻と呼ばれ、擬音語や擬声語によく使われてきた(頼, 1964; 羅, 2011: 89–91)。以下、ベトナム語語彙論研究における解釈をいくつか挙げる。

Nguyễn Văn Tu (1978: 70–79) は、“Từ ghép láy âm”(音を繰り返す熟語)と呼んでいる。2音節語のうち、1つの音節をもう1つの音節の音声変種と見なし、音の関連を持つ2つの音節が熟して作られたと考え、2つの音節の間に文法的繋がりと考えている。

Nguyễn Thiện Giáp (2016 [1985]: 86–101) は、“Ngữ láy âm”(音を繰り返す多音節語)と呼んでいる。この研究では、“Từ”(語、言葉)を単音節単位という意味の用語として定義しているため、一般的呼称の“Từ láy”を用いなかった。そこでは、完全な反復または既存の語のある音の変化を伴う反復によって作られた単位と定義し、音声的調和と同時に叙情叙景の効果もあるとしている。しかしその後の研究(Nguyễn Thiện Giáp, 2011: 189–196)では“Ngữ láy âm”を廃して一般的呼称の“Từ láy”を採用し、2要素を含む指示的叙景的機能を持つ単位と定義した。なおこの研究者は、一貫して叙情叙景の意味があることを条件に挙げているが、その判定方法については具体的に言及していない。

Hà Quang Năng (2008) は共時的観点から出発する必要性を説いており、音の繰り返しを含む語彙項目を、元となる音節と繰り返しによってできた音節に分けるという一般的解釈¹⁹の限界を指摘している。具体的には、かつて両方とも有意味音節だったものが現代では一方の意味が薄れたり失われたりしているものや、現代では2つの音節ともに意味が認められず、元となる音節を確定できないものの存在を挙げている。その上で、まずこれらの語彙群の構造は音声面に表され、どの音節が元または繰り返しなのかは問題にすべきでなく、各音節に意味があるかどうかは重要でないとした。また、これらの語彙群が持つ表象的意味(上述の叙情的叙景的意味に相当)は、音の繰り返しによって生み出されるとしている。

このように研究者によって用語、定義、解釈が異なっている。本論では、これらの語彙群を、便宜上、日本語語彙論でも用いられる「疊語」という用語で呼ぶことにする。また、筆者は Hà Quang Năng (2008) が共時的観点から述べた音の条件（音の繰り返しの有無）による定義がもっとも明白な判定基準になると考え、支持する。一方で、従来、他の研究者が指摘してきた音節間の文法的関係（熟語関係）や意味的条件（表象的意味があること）は、歴史的、客観的判定が難しいものが多いことから、本論では疊語の判定基準からは除外し、疊語が持つ特徴の一つとして扱う。以下、2.3 節で疊語の範囲を定める基準となる音の条件についてまとめる。

2.3 音韻上の条件による分類

疊語が持つ音の条件についても、研究者によって微妙な差があるが、本論では各種ベトナム語辞典で疊語と判断されている語彙を網羅できる Hà Quang Năng (2008) の条件を採用し、以下、疊語の中で大部分を占める 2 音節疊語の音韻上の条件を示す。

ベトナム語の疊語は「完全疊語」(Từ láy hoàn toàn, Từ láy toàn bộ) と「部分疊語」(Từ láy bộ phận) の 2 つに大きく分かれる。

2.3.1 完全疊語

2.3.1.1 完全に一致しているもの

これは、2 つの音節の音韻が完全に一致するものである。Hà Quang Năng (2008) は 2 音節目にアクセントが置かれるとしているが、ベトナム語では一般に、アクセントは弁別要素ではない。例として、(4) (5) を挙げる (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015: 27, 43)。

(4) "bè bè"/bè2 bè2/ 『(形) (身体または身体部分が) 通常のレベルを超えて幅広い。』

(5) "chuồn chuồn"/cuồn2 cuồn2/ 『(名) トンボ。』

2.3.1.2 声調の変化があるもの

これは、声調が仄声音調²⁰であるとき、1 音節目の声調が同じ音域²¹の平声音調に変わるものである。具体的には、2 音節目が 3, 5/ の声調のとき 1 音節目が 1/ の声調に、2 音節目が 4, 6/ の声調のとき 1 音節目が 2/ の声調に変わる。例として、(6) (7) を挙げる (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015: 50, 112)。これは絶対的規則ではなく、声調が変化する疊語と変化しない疊語が併存する場合もある。

(6) "dong dồng"/zõŋ1 zõŋ3/ 『(形) (姿が) (高さと共に) 少し痩せて、すらっとした。』

(7) "lùng lũng"/luŋ2 luŋ4/ 『(形) 大きくて、どこからか目の前に現れたようで、恐ろしい印象を与える。』

2.3.1.3 末子音の変化があるもの

これは、音節が閉鎖音で終わるとき、1音節目の末子音が同じ調音点の鼻音に変わるものである。具体的には、2音節目の末子音が/p/ (両唇)、/t/ (歯)、/k/ (口蓋) であるとき、1音節目の末子音はそれぞれ/m/ (両唇)、/n/ (歯)、/ŋ/ (口蓋) に変わる。これは、2.3.1.2 節の声調変化と共に起る。例として、(8) ~ (10) を挙げる (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015:21, 25, 140)。これは絶対的規則ではなく、末子音が変化する畳語と変化しない畳語が併存する場合もある。

(8) "ăm áp"/?ăm1 ?ăp5/ 『(形) もう欲しくないくらい非常に十分な。』

(9) "bản bặt"/bản2 băt6/ 『(形) 全く何の知らせもない。』

(10) "nình nịch"/ninh2 ních6/ 『(形) 非常にしっかりしていて、体が丈夫な。』

2.3.2 部分畳語

2.3.2.1 頭子音を繰り返すもの

これは、2つの音節の頭子音が一致し、韻が異なるものである。例として、(11) を挙げる。その中でも、主母音のみが入れ替わり²²、頭子音、末子音、声調などが一致するタイプが多いという²³。その例として、(12) (13) を挙げる (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015: 31, 42, 44)。また、このタイプの畳語には、2つの音節の順序が入れ替わった音声変種を持つものもある (Hà Quang Năng, 2008)。

(11) "buồn bã"/buồn2 ba4/ 『(形) (一般的に) 悲しい心情の。』

(12) "chông chênh"/cong1 ceŋ1/ 『(形) しっかりした拠り所がなく、頑丈でない。』

(13) "cùn cùn"/kun4 kɯn4/ 『(形) ものすごく短く、一部が欠けているように見える。』

2.3.2.2 韻を繰り返すもの

これは、2つの音節の韻が一致²⁴し、頭子音が異なるものである。声調は一致するものもあれば、しないものもある。例として、(14) を挙げる。その中でも、1音節目の頭子音が"/l"//l/のものが、約半数²⁵を占めるという。その例をして (15) を挙げる (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015: 55, 93)。

(14) "đầy rẫy"/đầy2 rẫy4/ 『(形) どこにでもあると感じるくらい多い。』

(15) "lẩm bẩm"/lẩm3 bẫm3/ 『(動/形) 自分だけが聞こえるくらいの小さい声で (話す)。』

2.4 意味上の特徴

共時的観点から分析している Hà Quang Năng (2008) に基づき、ベトナム語の畳語が持つ意味的特徴について述べる。例は、Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên) (2015: 26, 34, 38, 60, 65, 69, 119, 125) より挙げる。

まず、(16) のような擬音語を含む、音をまねてできた畳語がある。それらの中には、具体的な事物を表す名詞へと転換したものもある。

(16) "cằm cập"/kǎm2 kǎp6/『(形) 震えて上下の歯が連続的にぶつかる音をまねた語。』

次に、畳語の中で非常に多くを占めるのが、単独で意味を持つ音節を一つ含み、畳語全体がその単語と微妙なニュアンスの違いを表しているものである。例えば、(17) は、単音節語"che"/cɛ1/『覆う』²⁶を含んでいるが、危害を受けないためという限定的意味が付け加えられている。(18) (19) (20) は、それぞれ単音節語"gầy"/γǎi2/『痩せた』、"hay"/hǎi1/『面白い』、"móc"/mok5/『かびが生える』を含み、それに対して「一般的、概括的」(Khái quát) なニュアンスが加わり、さらに (19) には皮肉や否定のニュアンスが、(20) には数が多いというニュアンスが付け加えられている。(21) は単音節語"ngắn"/hǎn5/『短い』を含み、それに対して程度を弱めるニュアンス²⁷が付け加えられている。

(17) "che chớ"/cɛ1 cɔ4/『(動) 防衛し、危害に対抗するために防御、阻止する。』

(18) "gầy gò"/γǎi2 γɔ2/『(形) (一般的に) 痩せた。』

(19) "hay ho"/hǎi1 ho1/『(形) (一般的に、皮肉で否定的な意を含め) 面白い。』

(20) "móc meo"/mok5 meɔ1/『(形) (一般的に) 非常に多く、濃密にかびが生えた』

(21) "ngắn ngắn"/hǎn1 hǎn5/『(形) 少し短い。』

そして、共時的には元となる音節を決められず、畳語全体で一つのかたまりをなしているものがある。これは、元々無意味音節からできているものや、かつては音節にあった意味が失われた結果、共時的には無意味音節からできているように思われるものなどが含まれる。例として、(22) (23) を挙げる。

(22) "bâng khuâng"/bǎŋ1 kɔŋ1/『(形) だらだらと、呆然と (考える)。』

(23) "đu đũa"/du1 du3/『(名) パパイヤ。』

2.5 漢越語の畳語

全ての語彙を表音文字で表記する現代ベトナム語において、2.3 節で述べた音韻上の条件を満たす 2 音節の漢越語が、純ベトナム語畳語のように扱われることがある。畳語研

究の中で、特に漢越語のものに絞った先行研究は、管見の限り非常に少ない。

漢越語と中国語語彙の比較研究を行った羅 (2011) は、漢越語暈語と対応する中国語語彙を示し、また漢語借用語であるか「越製 (ベトナム製) (Việt tạo) の漢越語であるかの判断をしているが、意味内容の比較などの個別具体的な検討は行われていない。

ベトナム語暈語辞典から 114 個の漢越語暈語を収集した Vũ Đức Nghiệu (2011: 181-183) は、漢越語暈語がベトナム語暈語に非常に自然に入り込んでおり、漢字知識や辞書検索なしでは、誰もがベトナム語暈語だと思っただろうと述べている。また、それらの漢越語暈語を「漢語由来語彙、特に漢越語の大部分が、とても深くベトナム語に入り込んでいることを私たちに感じさせる証拠である」(Vũ Đức Nghiệu, 2011: 183 より引用。筆者和訳。)と評している。しかし、この研究も統計結果を一般的に論じるとどまっている。

3. 本論の目的と分析対象

本論では、先行研究が少ない漢越語による暈語に着目し、特に個別具体的な意味内容やその変化についての検討を中心にしながら、特徴を考察する。その際、ベトナム語固有の純ベトナム語暈語の特徴がどのように影響し、意味内容の変化に関連しているのかを考える。

筆者は、ベトナムの学生用に作られたポケットタイプのベトナム語暈語語彙集²⁸ (Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015) に掲載されている語彙項目の中で、大型ベトナム語辞典 (Vietlex, 2015) に漢越語として掲載されているものを 93 語収集した。これらは全て 2 音節語であった。本論では、これらの漢越語暈語を対象に、古代漢語ならびに現代中国語と比較し²⁹、意味内容の違いの有無を調べ、その違いについて分析する。

4. 分析

4.1 収集データの概要

表 1 は、2.3 節で述べた暈語の音韻上の特徴による分類ごとに、全 93 語の収集データの概要を示したものである。完全暈語は、2 つの音節が完全に一致しているもの (表 1 の①) が 1 語、声調と末子音の変化があるもの (表 1 の②) が 1 語見つかった。部分暈語は、頭子音を繰り返すもの (表 1 の③) が 60 語、韻を繰り返すもの (わたり音の不一致を含む) (表 1 の④) が 31 語見つかった。

古代漢語や現代中国語との対照について。79 語については古代漢語または現代中国語に同様の語彙項目が見つかり、残りの 14 語 (表 1 の二重線が引かれた語) については見つからなかった。

古代漢語や現代中国語との意味内容の違いについて。古代漢語または現代中国語に同様の語彙項目が見つかった 79 語のうち、25 語については意味内容の違いが見られ (表 1

の波線または実線が引かれた語)、54 語については違いが見られなかった。

表 1 収集した漢越語疊語の一覧

(波線は古代漢語や現代中国語との意味内容の違いがあるが一定の関連が見られるもの (4.2.1 節参照)、実線は古代漢語や現代中国語との意味内容の違いがあるが関連が見られないもの (4.2.2 節参照) を表す。二重線は古代漢語や現代中国語に同様の語彙項目が見つからなかったもの、そのうち太字は羅 (2011) が越製の漢越語だと認定したもの (4.3 節参照) を表す。)

完 全	① 完全一 致 (1 語)	"âm âm"/ʔəm1 ʔəm1/ 【陰陰】	
疊 語	② 変化あ り (1 語)	" <u>chân chất</u> "/căn1 căt5/ 【真質】	
部 分 疊 語	③ 頭子音を 繰り返す もの (60 語)	"an ủi"/ʔan1 ʔuĩ3/ 【安慰】 " <u>dân dã</u> "/zăn1 za4/ 【民野】 "du dương"/zu1 zuŋ1/ 【悠揚】 "điên đảo"/điên1 đẩu3/ 【顛倒】 "hài hoà"/hạĩ2 hạ2/ 【諧和】 "hàng hoá"/hạĩ2 hạ5/ 【行貨】 "hân hoan"/hăn1 huan1/ 【欣歡】 "hô hoán"/ho1 huan5/ 【呼喚】 " <u>hống hách</u> "/hoĩ5 hək5/ 【吼嚇】 "huy hoàng"/hũĩ1 huan2/ 【輝煌】 " <u>khàng khái</u> "/xạĩ3 xạĩ5/ 【慷慨】 " <u>khoan khoái</u> "/xuan1 xuai5/ 【寬快】 "lam lũ"/lam1 lu4/ 【襤褸】 "mênh mông"/men1 mon1/ 【溟濛】 "miếu mạo"/mieũ5 mau6/ 【廟貌】 "nghiêm nghị"/ngiẽm1 nĩ6/ 【嚴毅】 "nguy nga"/ngũĩ1 ɲa1/ 【巍峨】 "oan uông"/ʔuan1 ʔuon3/ 【冤枉】 "phong phú"/fõĩ1 fu5/ 【豐富】 "tận tụy"/tĩn6 tũĩ6/ 【盡萃 ³⁰ 】 "thảm thiết"/tãm3 tĩet5/ 【慘切】 " <u>thanh thản</u> "/tẽĩ1 t'an3/ 【清坦】 "thành thực"/tĩĩ2 t'uk6/ 【誠實】	" <u>âm u</u> "/ʔəm1 ʔu1/ 【陰幽】 "do dự"/zo1 zu6/ 【猶豫】 " <u>điềm đạm</u> "/điem2 dam6/ 【恬淡】 "độc đáo"/dok6 dau5/ 【獨到】 "hài hước"/hạĩ2 hũĩk5/ 【諧謔】 "hào hoa"/hau2 hạ1/ 【豪華】 "hình hài"/hiĩ2 hạĩ2/ 【形骸】 "hối hận"/hoĩ5 hĩn6/ 【悔恨】 "hung hãn"/huĩ1 han4/ 【凶悍】 " <u>kham khổ</u> "/xam1 xo3/ 【堪苦】 " <u>khẩn khoản</u> "/xĩn3 xuan3/ 【懇款】 "la liệt"/la1 liẽt6/ 【羅列】 "lưu luyến"/luũ1 lũiĩn5/ 【留戀】 " <u>miên man</u> "/mieĩn1 man1/ 【綿蔓】 " <u>ngạo nghễ</u> "/ɲau6 ɲe4/ 【傲睨】 "ngỗ nghịch"/ɲo4 ɲik6/ 【忤逆】 "nhàn nhã"/ɲan2 ɲa4/ 【閒雅】 "phảng phất"/fạĩ3 fĩt5/ 【仿佛】 "sung sướng"/sũĩ1 sũĩĩĩ5/ 【充暢】 "tha thiết"/t'a1 tĩet5/ 【磋切】 " <u>thàng thốt</u> "/tạĩ3 t'ot5/ 【倉卒/猝】 " <u>thanh thoát</u> "/tẽĩ1 t'uat5/ 【清脫】 "thâm thúy"/tĩĩm1 t'ũĩ5/ 【深邃】

	"thân thiết"/t'ʃn1 t'ʃiət5/ 【親切】 "thiết tha"/t'ʃiət5 t'a1/ 【切磋】 "tiêm tất"/tiəm1 t'ʃt5/ 【纖悉】 "tinh tế"/tiŋ1 te5/ 【精細】 "từ tốn"/tu2 ton5/ 【辭遜】 "tức tốc"/tuək5 tok5/ 【即速】 "tưởng tượng"/tuwŋ3 tuwŋ6/ 【想象】	"thân thuộc"/t'ʃn1 t'uək6/ 【親屬】 "thống thiết"/t'oŋ5 t'ʃiət5/ 【痛切】 "tín tưởng"/tin1 tuwŋ3/ 【信想】 "tung tích"/tuŋ1 tik5/ 【蹤跡】 "tứ tung"/tu5 tuŋ1/ 【四縱】 "tươm tất"/tuwŋm1 t'ʃt5/ 【纖悉】 "u uất"/ʔu1 ʔu'ʃt5/ 【幽鬱】
④ 韻を繰り返すもの (31語)	"áo nảo"/ʔau3 nau4/ 【懊惱】 "bòì hòì"/boj2 hoj2/ 【徘徊】 "đinh ninh"/điŋ1 niŋ1/ 【叮寧】 "đột ngột"/đot6 ɲot6/ 【突兀】 "hoàn toàn"/huan2 tuan2/ 【完全】 "lang thang"/laŋ1 t'aŋ1/ 【踟躕】 "liên miên"/liən1 miən1/ 【連綿】 "mung lung"/muŋ1 luŋ1/ 【朦朧】 "ôn tồn"/ʔon1 ton2/ 【溫存】 "phấn chấn"/fʃn5 ʃn5/ 【奮振】 "tán loạn"/tan5 luən6/ 【散亂】 "thong dong"/t'oŋ1 z'oŋ1/ 【從容】 "thược dược"/t'uək6 zuək6/ 【芍藥】 "triền miên"/t'ʃiən2 miən1/ 【纏綿】 "ung dung"/ʔuŋ1 zuŋ1/ 【雍容】 "yếu diệu"/ʔieu3 dieu6/ 【窈窕】	"bàng hoàng"/baŋ2 huan2/ 【徬徨】 "chi li"/ci1 li1/ 【支離】 "đôi môi"/doi2 moi2/ 【玳瑁】 "gian nan"/zan1 nan1/ 【艱難】 "huyên thiên"/huien1 t'uien1/ 【喧天】 "li kì"/li1 ki2/ 【離奇】 "long trọng"/l'oŋ1 ʃ'oŋ6/ 【隆重】 "nhiệt liệt"/ɲiət6 liət6/ 【熱烈】 "phân vân"/fʃn1 v'ʃn1/ 【煌紜 ³¹ 】 "quyến luyến"/kuien5 luien5/ 【眷戀】 "tham lam"/t'am1 lam1/ 【貪婪】 "thô lộ"/t'o3 lo6/ 【吐露】 "trầm ngâm"/t'ʃm2 ɲim1/ 【沈吟】 "tư lự"/tu1 lu6/ 【思慮】 "uyên chuyển"/ʔuien3 cuien3/ 【婉轉】

4.2 意味内容の違い

4.2.1 意味内容に一定の関連が見られるもの

古代漢語や現代中国語における同様の語彙項目と比べたとき、(24)～(27)を含む7語(表1の波線が引かれた語)については、意味内容に一定の関連が見られた。

「襤褸」は「衣服のぼろ」という意味だが、(24)では貧困を表す形容詞に転換している。(25)について、Lê Xuân Thai (2013)によると、中国語で「暢」は、深く理解スムーズだという意味と、嬉しくて満足だという意味を持つが、中国語の「充暢」では前者の意味が、ベトナム語では後者の意味が適用されているという。この違いは、ベトナム語で *suống* 【暢】が単独で、満足で気持ちがいいという意味で使われる形容詞となっていることによると考える。「羅列」は「列にして並べる」という意味だが、(26)では

列ではなく、めちゃめちゃに、という意味に限定されている。「散乱」は「ちらばる」という意味だが、(27)では危険から逃れる、という意味に限定されている。その上、ベトナム語辞典には口語的ニュアンスのある同義語として、わり音を含めた韻全体を繰り返した"toán loạn"/tuán5 luan6/が掲載されており (Vietlex, 2015: 1575)、ベトナム語の音声規則の影響を受けた変種が登場していることから、この漢越語単語がベトナム語の中に深く根を下ろしていることが分かる。

このように、意味内容に違いはあるが、一定の関連が見られるものは、品詞の転換や、ベトナム語における単音節漢越語の影響によって意味変化を起こしたり、意味内容が限定されたりしていることが分かる。

(24) "lam lủ"/lam1 lủ4/ 【襤褸】『(形) 大変で、骨が折れる。』

(25) "sung sướng"/sũŋ1 sũũŋ5/ 【充暢】『(形) 楽しくて、物質または精神的に満たされていると感じている。』

(26) "la liệt"/la1 liệt6/ 【羅列】『(形) 多くのものがあらゆる場所にめちゃくちゃに並べてあり、何の順番にも従っていない。』

(27) "tán loạn"/tan5 luan6/ 【散亂】『(動) 恐れにより秩序もなく様々な方向に素早く分散する。』

4.2.2 意味内容に関連が見られないもの

古代漢語や現代中国語における同様の語彙項目と比べたとき、(28) ~ (33b) を含む 18 語 (表 1 の実線が引かれた語) については、意味内容に関連が見られなかった。

(28) について、「支離」は「ばらばらに分散する。めちゃめちゃである。」という意味だが、Lê Xuân Thai (2007) によると、「chi」【支】が同音の「chi」【枝】(これは単独では使われず、「chi tiết」【枝節】『詳細』などの漢越語に使われる) のように解釈されている可能性があるという。実際、(28) のベトナム語による説明文 (28a) には、「chi tiết」【枝節】『詳細』が使われている。また、「li」【離】と同音の単音節語「li」【釐】『ほんの少し』という言葉も使われており、「li」【離】がこの同音異義語によって解釈されている可能性も高い。

(28) "chi li"/ci1 li1/ 【支離】『(形) 詳細で、細かく、小さい部分ごとにはっきりした。』

(28a) Chi tiết, tỉ mỉ, rạch ròi từng li từng tí một.

(29) について、通常、漢越語で用いられる「天」の漢越音は"thiên"/t'ien1/であり、Vietlex (2015: 741) にはこれを用いた"huỳen thiên"/hụien1 t'ien1/が古いニュアンスのある同義語として掲載されている。つまり、かつては漢越音通りに読まれていた³²が、ベトナム語

の音声規則の影響を受け、2音節目のわたり音が1音節目に合わせる形で、/ø/から/u/に変化しており、変化後の(29)の方が主な語彙項目として掲載されていることから、この漢越語疊語はベトナム語の中に深く入り込んでいると言える。しかし、「声が大きくて天まで届く」という意味の「喧天」が、このような意味変化を起こした経緯は不明である。

(29) "huyền thuyên"/h^hu^hien1 t^hu^hien1/ 【喧天】『(形) (口数が) 非常に多く、冗長で、あれこれ話すような。』

(30) について、「閑雅(嫺雅)」は「しとやかで優雅である」という意味だが、ベトナム語では「優雅」という意味がなくなっていることから、2音節目の"nhā"【雅】は無意味音節として捉えられている可能性がある。また、(30) ベトナム語の説明文(30a)では、単音節語"nhàn"【閑³³】『くつろぐ』が使われているが、この意味は「閑」の字義にはなく、ベトナム語内で生まれたものである。ベトナム語辞典(Vietlex, 2015: 1110)には、「一般的な言い方」と書かれていることから、2.4節で述べた「単独で意味を持つ音節を一つ含む疊語」(すなわち単音節語"nhàn"を元にした疊語)として捉えられるようになったと考えられる。

(30) "nhàn nhā"/n^han2 n^ha4/ 【閑雅】『(形) 暇で、ゆったりとして、心身ともにくつろいでいる。』

(30a) Rồi rãi, thành thoi, ung dung, **nhàn cả về thể chất lẫn tinh thần.**

(31a) (31b) は同義語であり、(31a) が主項目となっている。これらの意味は、「切磋」の「(学問などを) 互いに磨き合う」という意味とは大きく異なっている。ベトナム語辞典(Vietlex, 2015: 1421, 1479)の説明文を見ると、(31a)の2つの意味はそれぞれ(31c)(31d)のように書かれており、2音節目に(31a)と同じ"thiết"を持つ"thăm thiết"/t^hăm5 t^hiet5/、"cấp thiết"/k^háp5 t^hiet5/【急切】という語が使われている。また、"thiết"は単音節語として『(通常、否定の意と共に) 需要があり、何かを非常に好んだり、ほしいと思ったりする。』という意味も持っている。このことより、これらの語が(31a)の語感から連想され、その意味の影響を受けたために大胆な意味変化が起きた可能性が指摘できる。

(31a) "tha thiết"/t^ha1 t^hiet5/ 【切磋】『(形) 1. (感情が) 忘れられないくらい強く結びつき、深くて濃い。2. 自身にとってとても必要で、得たいと思うような。』

(31b) "thiết tha"/t^hiet5 t^ha1/ 【切磋】『"Tha thiết"を見よ。』

(31c) [Tinh cảm] **thăm thiết** làm cho gấn bó hết lòng, luôn luôn nghĩ đến, quan tâm đến.

(感情が濃厚で、全霊で繋がり、常にそれについて考え、関心を持つようにさせる。)

(31d) **Rất cấp thiết đối với mình và hết sức mong mỏi được đáp ứng.** (自身にとって非常に必要で、要求に応じてほしいものすごく待ち焦がれる。)

(32a) について、「纏綿」とは「(物理的、心理的に)まとわりついて離れない」という意味だが、「纏」の「まとまる、絡まる」の意味がなくなっており、「綿」の「長く続く」という意味しか見られない。ベトナム語辞典 (Vietlex, 2015: 1623) には、同義語として (32a) と 2 音節目が共通し、量語の条件を満たす (32b) が掲載されている。"Triền"【纏】という漢越語音節は、現代ベトナム語では (32a) 以外でほとんど使われず、漢字の字義は喪失していると考えられる。そのため、(32a) の語感が同じ韻の繰り返しによってできた量語 (32b) を連想させ、その意味の影響を受けた可能性が考えられる。

(32a) "triền miên"/*triền2 miên1*/【纏綿】『(形) 長く続き、冗長で、終わらないような。』

(32b) "liên miên"/*liên1 miên1*/【連綿】『(形) だらだら連続し、長続きし、止めにくい。』

(33a) (33b) は別項目になっているが、ベトナム語辞典 (Vietlex, 2015: 1542, 1692) においては同義語として扱われ、(33a) の方が古く、(33b) が主項目となっている。どちらの項目とも、「織悉」の「詳しくて、つまびらかである」という意味とは大きく異なっており、音節ごとの意味が意味変化を引き起こしている可能性があると考えられる。(33b) の 1 音節目は、"tiêm"【織】という漢越音が変化してできた"turom"『(口語) それ以上要求することが難しい物質的条件下で、大丈夫だ (時には良い) と見なせるような』という単音節語になっている (Vietlex, 2015: 1692)。ここで、1970 年代のベトナム語辞典 (Văn Tân (Chú biên), 1977: 831) を参照すると、単音節語"turom"は『そこそこよく、大丈夫に見える』という現代と同様の意味で掲載されているが、(33b) と同じ"turom tất"は『用意周到で、慎重で、細かい』という、「織悉」の原義に似た意味で掲載されている。このことから、(33b) の漢越語が単音節語"turom"に影響されて、意味内容の変化を起こした可能性が考えられる。

(33a) "tiêm tất"/*tiêm1 tất5*/【織悉】『(形) (通常、物質生活における) 需要にとりあえず応えるためのものが十分にあり、満足な感じを与えるような。』

(33b) "turom tất"/*turom1 tất5*/【織悉】『(形) 物質生活における需要に応えるために必要なものが十分あり、完璧な感じを与えるような。』

このように、意味内容に関連が見られないものは、疊語に含まれる音節が、単音節語として使われている漢越語や、同音異義の純ベトナム語や漢越語や、音形の似ている別の語彙項目として解釈され、それらの影響を受けて意味変化しているケースがあることが分かる。

4.3 ベトナム語独自の語彙

14語（表1の二重線が引かれた語）については、古代漢語や現代中国語に同様の語彙項目が見つからなかった。これらは全て、頭子音を繰り返す疊語であった。ベトナム語の漢越語と中国語語彙を体系的に比較した中国人研究者の羅（2011）の語彙リストによると、この14個のうち10個（表1の二重線が引かれた太字の語）について、古代漢語や現代中国語に存在しない越製の漢越語だと認定されている。越製の漢越語については借用元がないため、それ自体を漢越語と見なすことができるか、どの漢字を当てるかについて基準がなく曖昧になったり、研究者や辞書によって解釈が大きく異なったりすることがある。例えば、羅（2011）が越製と判断した語の中に（34a）があり、ベトナム語辞書（Vietlex, 2015: 1684）には同義語として純ベトナム語疊語の（34b）が掲載されている。このことから、（31）（32）の例と同様に、（34a）の語感が（34b）を連想させた可能性もあり、（34a）の2音節目が「縦」という漢字に由来することに確証が得られず、語源や用法については更なる歴史的調査が必要であると筆者は考える。

(34a) "túr tung"/tu5 tuŋ1/ 【四縦】『(形) あらゆる場所に散らばっている。』

(34b) "lung tung"/luŋ1 tuŋ1/

5. まとめ

本論では、個別具体的な先行研究が少ない漢越語疊語に焦点を当て、使用頻度の高いものを抽出して検討を行った。その結果、以下の結論が得られた。

まず、今回語彙収集のために使用した疊語語彙集（Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên), 2015）の全1122語中、93語（約8.3%）が漢越語であり、少なくない漢越語がベトナム語の疊語として認識されていることが分かった。このことは、漢越語が現代ベトナム語を構成する一員として、現代ベトナム語の中で溶け込んでいることを示している。

そして、漢語や中国語から由来したと判定される79語中、25語が意味内容の変化を起していることが分かった。そして、それらの意味変化は、ベトナム語疊語が持つ意味的特徴の一つであるニュアンス付加や意味内容の限定であったり、単音節語として使われている漢越語の意味の影響を受けて引き起こされたり、同音異義の純ベトナム語や漢越語として解釈された結果であったり、音形の似ている別の語彙項目との類推によって引き起こされたりしたものであった。このことは、古代漢語や現代中国語に起源を持

つ漢越語が、漢字という字形の殻を脱ぎ、表音文字体系の現代ベトナム語の中に入り込んだときに、同じ言語世界で共存している語彙から意味的、音声的な影響を多分に受け、溶け込んでいくことを示している。特に漢越語疊語は、他の漢越語語彙に比べ、ベトナム語への「溶け込み」の度合いが高いのではないかと筆者は考えており、この点については更なる研究が求められる。

また、部分的な意味変化を起こしたもの（7語）よりも、元の漢語や中国語の語彙と関連がないくらい大きく意味変化を起こしたもの（18語）の方が多くことは興味深い。このような大胆な意味変化が、ベトナム人研究者が指摘するベトナム語疊語の表象的、叙情叙景的意味と関連があるかについては、より深い考察が必要である。

本論では、1122語という狭い範囲でしか語彙収集を行うことができなかった。今後はより大型の辞典を使うなどして、より広範囲かつ体系的な調査が求められる。

註

- 1 現代ベトナム語表記では、多音節の外国の固有名詞や西洋語由来語彙を除いて、原則的に音節ごとに分かち書きされる。
- 2 ベトナム独立王朝期には、ベトナム語を表すために、漢字の構造を応用した「チューノム」（字喃）という文字が作られたが、胡季犛（ホー・タイ・リー Hồ Quý Ly）や阮恵（グエン・フエ Nguyễn Huệ）などの治世を除き、概ね漢字漢文に対して従属的な地位に置かれた。
- 3 フランスがフランス語と同じアルファベット体系のチュークオックグーの普及を進めたことに対し、当初、在地知識人は反発したが、徐々にその利便性や表現力が評価され、ベトナム人側もこれを主体的に受け入れるようになった（岩月, 2005）。
- 4 本論では、歴史的な文脈の中や、ベトナム語の語種に着目する場合に「漢語」を用いる。一方で、現在、中国をはじめとして用いられている言語を指す場合に「中国語」を用いる。
- 5 Nguyễn Tài Cẩn (1979: 11–16) によると、これは8~9世紀に当時の交州地方（現在のベトナム北部から中国広東省にかけての地域）で教えられていた唐代の漢字音体系に起源を持ち、その後ベトナム語の歴史的な音声変化の影響で形成されたベトナム独自の漢字音である。なお、同研究は「漢越読み」（Cách đọc Hán Việt）という呼称を用いている。
- 6 漢越語以外には、漢越語の成立以前にもたらされた「古漢越語」（Tữ Hán Việt cổ）、漢越語の一部が音声変化してできた「越化漢越語」（Tữ Hán Việt Việt hoá）、中国南部からの華人移住でもたらされた「漢語方言音模倣語」（Tữ Hán Việt phỏng âm phương ngữ tiếng Hán）の3種類が、非体系的に存在している（Nguyễn Văn Khang, 2013: 67–107）。
- 7 古ベトナム語の段階で、主にタイ・ガダイ系やオーストロネシア系の言語から借用されたものである（Trần Trí Dõi, 2011）。

- 8 漢字表記のある語彙項目を漢越語、フランス語や英語などの原語記載がある語彙項目を西洋語由来語彙、それ以外を純ベトナム語と判定する。漢越語はその漢字を【 】に入れて示す。
- 9 "b"/b/, "đ"/d/, "t"/t/, "th"/t/, "tr"/t/, "ch"/c/, "c, k, q"/k/, "m"/m/, "n"/n/, "nh"/ɲ/, "ng, ngh"/ŋ/, "ø"/ʔ/, "ph"/f/, "v"/v/, "x"/s/, "d, gi"/z/, "l"/l/, "s"/s/, "r"/z/, "kh"/x/, "g, gh"/ɣ/, "h"/h/.
- 10 "ø"(Thanh ngang) /1/, " ` "(Thanh huyền) /2/, " ˘ "(Thanh hỏi) /3/, " ~ "(Thanh ngã) /4/, " ´ "(Thanh sắc) /5/, " . "(Thang nặng) /6/.
- 11 "ø"/ø/, "o, u"/u/.
- 12 "i, y"/i/, "ê"/e/, "e"/e/, "a"/ɛ/, "u"/u/, "o"/ɔ/, "â"/ɤ/, "a"/a/, "ã, a"/ã/, "u"/u/, "ô"/o/, "o, oo"/ɔ/, "o"/ɔ/, "ia, ie, ya, ye"/ie/, "ua, uo"/uɤ/, "ua, uô"/uô/.
- 13 "ø"/ø/, "p"/p/, "t"/t/, "c, ch"/k/, "m"/m/, "n"/n/, "ng, nh"/ŋ/, "o, u"/u/, "i, y"/i/.
- 14 通常、ベトナム語音韻論では、頭子音、主母音、末子音をそれぞれ頭音、主音、末音と呼び、母音や子音という用語を使わない。しかし本論では、日本語でより一般的な頭子音、主母音、末子音という用語を採用する。
- 15 頭子音、わたり音、末子音を持たない音節を認める説もあるが、本論では頭子音に声門閉鎖音を含め、わたり音と末子音のゼロ音素を認めている Đoàn Thiện Thuật (2016) の枠組みに基づく。なお、ゼロ音素は単語の音韻表記には示さない。
- 16 品詞情報は、名詞を(名)、形容詞を(形)、動詞を(動)、副詞を(副)と記す。
- 17 Hà Quang Năng (2008) によると 5400 個程度の語彙項目が存在する。また、Nguyễn Thiện Giáp (2016 [1985]: 91–94) は、「3 音節繰り返し」(Láy ba) のものは約 40 個、「4 音節繰り返し」(Láy tư) のものは 555 個存在するとしている。
- 18 本論では、文言を指す語として用いる。
- 19 (3) "gặp gỡ"/gáp6 ɣɔ4/『(動) 出会う。』の場合、単音節語" gặp"/gáp6/『会う』を元となる部分と見なし、もう一つの音節"gỡ"/ɣɔ4/を繰り返すことによってできた部分と見なす考え方である。
- 20 ベトナム語の声調は、平らな「平」(Bằng) と平らでない「仄」(Trắc) の二つの「音調」(Âm điệu) に分かれる。平声音調は1, 2/、仄声音調は3, 4, 5, 6/の声調である (Đoàn Thiện Thuật, 2016: 84–86) 。
- 21 ベトナム語の声調は、高低2つの「音域」(Âm vực) に分かれる。疊語の多くは、歴史的な音域区分 (高音域は1, 3, 5/、低音域は2, 4, 6/の声調) において、2つの音節が同じ音域の声調になることが指摘されており (Đoàn Thiện Thuật, 2016: 87–88) 、本論における音域とは歴史的音域区分である。なお、現代語の音域区分では、/3/と/4/の声調の位置が入れ替わる。
- 22 Nguyễn Thiện Giáp (2016 [1985]: 88–91) によると、その中で、(12) のように同じ開口度の後舌母音と前舌母音のペア (狭母音の"u"/u/と"i, y"/i/、半狭母音の"ô"/o/と"ê"/e/、広母音の"e"/e/と"o"/ɔ/) が入れ替わるものが約 40%を占める。

- 23 頭子音を繰り返す2音節語の中で、主母音のみが一致しないもののみを疊語と認め、その他を疊語に入れない考え方もある。Nguyễn Thiện Giáp (2016 [1985]: 88–98) は後者を「疊音語」(Từ điệp âm) と呼び、別のカテゴリーとして捉えている。
- 24 Đoàn Thiện Thuật (2016:58–62) によると、韻内部のわたり音が"o, u"/u/である場合、1音節目のわたり音が"ø"/ø/に変わった音声変種を持つ場合があり、例えば、"loay hoay"/lu^{ai}1 hu^{ai}1/と"lay hoay"/lai1 hu^{ai}1/、"luân quân"/lu^{an}3 k^uan3/と"lân quân"/lan3 k^uan3/はそれぞれ音声変種である。しかし、このような例は少ないという。
- 25 1307 個中 641 個 (約 49%) (Hà Quang Năng, 2008: 103)。
- 26 王力 (1949) によると、「遮」という漢字の古漢越語である。
- 27 一般的に完全疊語の意味は、事物の場合は複数性を (単音節語"người"/ŋu^{oi}2/『人』の完全疊語"người người"/ŋu^{oi}2 ŋu^{oi}2/『人々』など)、行動の場合は反復性を (単音節語"gật"/gyt6/『頷く』の完全疊語"gật gật"/gyt6 gyt6/『何度も頷く』など)、性質の場合は程度の減少 ((21) など) を表すことが多いと指摘されている (Nguyễn Thiện Giáp, 2016 [1985]: 98–100) 。
- 28 ベトナムの教育訓練省が編纂した小学校ベトナム語科、中学校語文科の教科書から、頻出の疊語を 1122 語抽出し、教科書内の例文とともに掲載している。
- 29 現代中国語は愛知大学中日大辞典編纂処 (編) (1987) を、古代漢語は鎌田、米山 (2010) を参照した。
- 30 Nguyễn Đình Hiền (2017) は、この漢字表記が「盡瘁」の誤りであると指摘している。
- 31 Nguyễn Đình Hiền (2017) は、この漢字表記が「紛紜」の誤りであると指摘している。
- 32 1970年代のベトナム語辞典では、漢越音通りに読む"huyền thiên"の項目しか見られない(Văn Tân (Chủ biên), 1977: 403)。
- 33 三根谷 (1993: 326, 431, 519) は「閑」の漢越音として①"nhàn" (<中古音 ŋen1)、②"gian" (<中古音 ken1)、③"gián" (<中古音 ken3) の3つを挙げ、「閑」の漢越音として①と同じ"nhàn" (<中古音 ŋen1) を挙げており、①は中古音からの漢越音成立規則から考えると「異例」で「説明困難」なケースであると認めている。一方、筆者が漢字表記を依拠した Vietlex (2015) では、①の漢字表記に「閑」を、②③の漢字表記に「間」を用いている。

参考文献

- 愛知大学中日大辞典編纂処 (編) (1987) 『中日大辞典 (増訂第二版)』、東京：大修館書店。
- Brunelle, Marc and Lê Thị Xuyên (2014) Why is sound symbolism so common in Vietnamese?. Jeffrey P. Williams (ed.), *The Aesthetics of Grammar: Sound and Meaning in the Languages of Mainland Southeast Asia*, 83–98, Cambridge: Cambridge University Press.
- Đoàn Thiện Thuật (2016) *Ngữ âm tiếng Việt (Tái bản lần thứ 5)*. Hà Nội: Nxb. Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Hà Quang Năng (2008) *Từ láy và phương thức láy*. Hoàng Văn Hành (Chủ biên) *Từ tiếng Việt: hình thái - cấu trúc - từ láy - từ ghép - chuyển loại (Tái bản lần thứ nhất)*. TPHCM: Nxb. Văn hoá Sài Gòn,

69-139.

- 岩月順一 (2005) 「近代ベトナムにおける『漢字』の問題」、村田雄二郎、C. ラマール (編) 『漢字圏の近代：ことばと国家』 131-147、東京：東京大学出版会。
- 鎌田正、米山虎太郎 (2010) 『新漢語林』 (CASIO 電子辞書)、大修館書店。
- Lê Xuân Thái (2007) Tìm hiểu nghĩa của yếu tố Hán Việt: Chi li, Chi tiết, Hào chi ... *Ngôn ngữ*, 12, 61-64.
- Lê Xuân Thái (2013) Tìm hiểu nghĩa của yếu tố Hán Việt trong các từ Bàu cử, Cung cấm, ... *Ngôn ngữ*, 2, 25-29.
- 羅文青 (2011) 越南語雙音節漢越詞特點研究-與漢語比較. 廣州：世界圖書出版廣東有限公司。
- 三根谷徹 (1993) 『中古漢語と越南漢字音』、東京：汲古書院。
- Nguyễn Đình Hiền (2017) Bàn về một số chữ Hán viết nhầm trong từ điển tiếng Việt. *Ngôn ngữ và đời sống*, 1, 38-44.
- Nguyễn Khánh Hà (Chủ biên) (2015) *Sổ tay từ láy tiếng Việt (Dành cho học sinh)*. Hà Nội: Nxb. Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Nguyễn Tài Căn (1979) *Nguồn gốc và quá trình hình thành cách đọc Hán Việt*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.
- Nguyễn Thiện Giáp (2011) *Vấn đề "từ" trong tiếng Việt*. Hà Nội: Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Nguyễn Thiện Giáp (2016 [1985]) *Từ vựng học tiếng Việt (Tái bản lần thứ mười)*. Hà Nội: Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Nguyễn Văn Khang (2013) *Từ ngoại lai trong tiếng Việt*. TPHCM: Nxb. Tổng hợp Thành phố Hồ Chí Minh.
- Nguyễn Văn Tu (1978) *Từ và vốn từ tiếng Việt hiện đại (Tái bản có sửa chữa và bổ sung)*. Hà Nội: Nxb. Đại học và Trung học chuyên nghiệp.
- 頼惟勤 (1964) 「漢語のオノマトペア」、『言語生活』 151、26-31。
- 佐藤章太 (2019) 「現代ベトナム語の漢越語が持つ固有語的特徴—中等教育数学用語の体系的分析を通して—」、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻 (編) 『言語情報科学』17、19-35。
- Trần Trí Dồi (2011) Khái niệm từ thuần Việt và từ ngoại lai từ góc nhìn của lịch sử tiếng Việt hiện nay. *Ngôn ngữ*, 11, 8-15.
- Văn Tân (Chủ biên) (1977) *Từ điển tiếng Việt (In lần thứ hai do Văn Tân, Nguyễn Văn Đạm chỉnh lý và bổ sung)*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.
- Vietlex (2015) *Từ điển tiếng Việt: 46.540 mục từ, 54.605 nghĩa từ (In lần thứ 3)*. Hà Nội: Nxb. Đà Nẵng.
- Vũ Đức Nghiệu (2011) *Lược khảo lịch sử từ vựng tiếng Việt*. Hà Nội: Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- 王力 (1948) 漢越語研究. 嶺南學報, 第9卷第1期, 1-96.

謝辞

この研究は、公益財団法人松下幸之助記念志財団の助成を受けた。ここに謝意を表する。